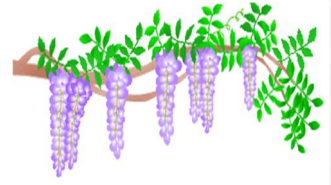




市川市立妙典中学校だより 5月号

息吹 04



学校教育目標 未来を拓く妙典中学生 ～明るく・正しく・美しく～

○ふれあいを大切に作る生徒 ○進んで学ぶ生徒 ○頑張り抜く生徒 令和4年5月20日

〔 表題「息吹」は、妙典中校歌、2番の歌詞「♪～世界の息吹うけとめて、生きる力を身につけん～♪」から付けました。「04」は令和4年度を表しています。生きる力を身に付け、未来を拓く妙典中学生の育成を目指します。 〕

生徒主体で生徒が輝く「灼熱の体育祭」

5月15日(日)、前日は雨で順延となり、この日も天候やグラウンドコンディションが心配されましたが、朝早くからグラウンド整備、テント設営、机や椅子の設置、用具の準備、入場門の装飾、ライン引き、開閉会式のリハーサル等々…たくさんの生徒が一生懸命力を合わせて準備を整え、令和4年度 第37回体育祭を無事、開催することができました。

今年度のスローガンは「灼熱の体育祭～勝利の聖火に火を灯せ～」でした。開会式の校長挨拶ではスローガンに触れ、「代々、生徒主体で作上げてきた、妙典中体育祭の伝統という聖火リレーを見事に受け継ぎ、これまでで一番熱い『灼熱の体育祭』にしよう」という旨の話をしたのですが、前日までの準備も含め、「自分たちの行事を自分たちで運営する。」という生徒たちの高い意識を、いろいろな場面で感じる体育祭でした。



練習や準備・進行の中心となった体育委員をはじめ、息つく暇もない用具の設置、確実に厳正な着順の確認、臨場感たっぷりの放送、入賞シール配付、得点の集計と演出を凝らした発表、記録、救護…各係がそれぞれの仕事に使命感を持って主体的に取り組んでいた様子が例年以上に印象に残りました。

順位にかかわらず力を出し切り晴れやかな表情でゴールを駆け抜けていた個人種目、各学年とも楽しいながらもなかなか難しく、何度も練習してきた成果を発揮した団体種目、掛け声と気持ちを合わせ、みんなが一つになった大縄跳び、懸命にバトンを繋ぎ、抜きつ抜かれつたくさんのドラマがあった学級対抗リレー・部活対抗リレー・紅白リレー…競技者としての姿もみな輝いていました。



応援席にはどのクラスにも一生懸命「学級旗」を振っている生徒がいて、話を聞くと工夫した点や誰が頑張って作っていたかなど、みな誇らしげに説明してくれました。どの旗も素材や縫製、刺繍や塗装など、みんなで時間と手間をかけて作ったことがよくわかる、素晴らしい「作品」でした。

他にも「妙典中の生徒はすごいな」と感じる事がたくさんありました。どの生徒もトップを争っているときも、大きく差をつけられているときも変わらず最後まで全力を尽くして競技に取り組んでいました。順位が良ければもちろん大喜びしますが、結果にかかわらず頑張りきったこと自体に満足し、いい表情で笑い合っていました。競技後にルールに照らして順位の降格が発表されても、審判系の判定に不満や落胆の態度を見せることなく、素直に受け入れていました。どれも当たり前のことかもしれませんが、なかなかできないことだと思います。

体育委員長をはじめとする代表生徒の開閉会式での淀みなく的確な言葉も本当に素晴らしいものでした。様々な場面で見られた友達への温かな心遣いにも感動しました。



今年度は3年ぶりに、各家庭1名の人数制限にご理解をいただきながら、保護者の皆様に参観していただけたこともとても大きな喜びでした。子供たちにとっても、お家の人に直接見ていただけたことは大きな励みになったと思います。来校者の確認や自転車整備、パトロール、広報など様々な形でご協力いただいたPTA役員はじめ保護者の皆様、おやじの会の皆様、CN(コミュニティサポート)の皆様、ご理解・ご協力、本当にありがとうございました。

自分たちで作り上げ、たくさんの「感動」と「達成感」、そして「仲間との絆」が得られた最高の体育祭になりました。これからの学校生活に繋げ、1・2年生は3年生のリードで実践できた「生徒主体の体育祭」の伝統を、来年以降も大切にしてもらえたらと思います。

部活動 春季大会等の記録

- 陸上部 市川・浦安支部陸上競技 記録会
共通男子砲丸投げ 第4位 共通男子4×100mリレー 第7位
共通女子4×100mリレー 第1位 共通女子200m 第3位 第4位
共通女子100mハードル 第7位 共通女子1500m 第6位 第8位
共通男子ジャベリックスロー 第7位 共通女子ジャベリックスロー 第8位
3年女子100m 第5位 第8位 2年女子100m 第1位 第3位
- 剣道部 市川市内少年剣道錬成大会 中学女子の部 第3位
- バドミントン部 市川市・浦安市春季バドミントン大会 女子団体 第2位(県大会出場)
- 男子バレーボール部 春季市民大会 第3位 ちばジュニア強化指定選手



今年度の教育活動

昨年度、予測困難な未来を生き抜く資質・能力を育てることを目指す新しい学習指導要領が本格実施となり、新しい学力観や、これに基づく評価の観点等について生徒、そして保護者の皆様にもご説明してまいりました。また、GIGAスクール構想のもと一人一台タブレットが配付され、様々な面でご協力をいただきました。今年度も「主体的・対話的で深い学び」の実践を念頭に、ICT機器も効果的に活用しながら、新しい学力観に基づいた学習指導を行っていきたく思いますので、ご理解ご協力をお願いいたします。



また、新型コロナウイルスへの対応につきましては、今年度に入り、基本的な感染症対策を徹底しながらも、様々な活動を制限するのではなく、段階的に本来の活動に戻していく方針が文科省、教育委員会から示されています。授業、給食や休み時間など学校での生活、校外学習や修学旅行、行事、部活動、式典、等々、様々な学校教育活動において、これまでの制限が緩和されることとなります。本校においても、引き続き、健康観察、会話時のマスク着用、手洗い、換気、密閉空間での密集の回避等、基本的な対策を徹底しながら、制限緩和を念頭に、状況に応じた教育活動を進めてまいりたいと思っておりますので、ご理解ご協力をよろしくお願いいたします。

おやじの会とお花壇の会

本校の子供たちを陰で支えてくださっている頼もしい2つの会が「おやじの会」と「お花壇の会」です。「おやじの会」は、その名の通り親父(父親)有志が集まって、親父の特性を活かした様々な活動をしてくださっています。先日は、「特別教室などで使用している古い木の椅子の座る部分のささくれを何とかしてほしい」という生徒の要望に応え、グラインダーや紙やすりを使ってすっかり滑らかにしてくださいました。手間と時間のかかる作業、本当にありがとうございました。



そして「お花壇の会」…ちょっと不思議なネーミングの由来は、母親の有志が集まって花壇の世話をする会だから、「おやじ」に対する「おかん」の意味を込めて「おか(だ)んの会」になったとのこと。長期休業中や土日も含め、年間を通して水やりや植え替えなどの世話を欠かさず、いつも元気よく咲いた花が子供たちを見守るように活動してくださっています。正門の花壇には、季節の行事に合わせた、さりげない飾りつけが施され、登校する子供たちを楽しい気持ちにさせてくれる気遣いも…本当にありがとうございます。オヤジ・オカンの皆さま、これからもよろしくお願いいたします。



校長室より…

一日に一度は、子供たちが生き生き学習している様子を見たくて、授業中に全校をまわっています。個人個人が真剣に課題に取り組んでいる教室、グループになって活発に意見を出し合っている教室、大型モニターを使って堂々と発表する生徒がいてそれを皆が聴き入っている教室、タブレットを使いこなして調べ学習をしている教室など、いろいろな形で生徒は自ら学習に取り組んでいます。先生が説明している場面もありますが、それを聴く生徒の目はよく集中しています。

英会話や理科実験、合唱練習、木工や裁縫、絵画やレタリング、球技や器械体操など、実技や運動に取り組んでいる姿も「先生に言われてやっている」感じが全くなく、真っ直ぐな気持ちで楽しんで取り組んでいることが伝わってきます。妙典中の子供たちの学ぶ姿を見てみると、学校教育目標の目指す生徒像のひとつ「進んで学ぶ生徒」を正に体現しているようで、感心すると同時に「これからもそんな子供たちの気持ちがずっと続くような学習の場を提供していかなければいけないな」と身が引き締まる思いにもなります。

